

金沢学院大学・金沢学院短期大学

二〇二六（令和八）年度 入学者選抜試験問題

総合型選抜 学力選抜方式

二〇二五年十二月十三日（土）実施

国語

I 注意事項

- 1 問題冊子は、試験開始の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 解答用紙の解答科目欄に受験科目を記入・マークしてから解答してください。
- 3 問題は 1 ページから 21 ページまであります。
- 4 第3問、第4問は受験する学科・専攻によって解答する設問が異なりますので、注意してください。
- 5 問題は持ち帰ることはできません。試験終了後に回収します。

II 解答上の注意

解答は、解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、「解答番号は

10

」と表示のある問いに対して

④と解答する場合は、下記の例のようにマークしてください。

（例）

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

問題は次のページからです。

第1問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

近代の日本ほど西洋料理を熱心に取り入れて食の仕組みを激変させた国は、世界中を探しても類を見ないだろう。文明開化の府の強制力なしではこの劇的な大転換はありえなかった。七世紀後半、天武天皇によって肉食禁止令が(1)発布されて以来、一〇〇〇年以上も遠ざけていた肉食をいきなり解禁し、お上みずから(2)率先して食べて大奨励。肉食こそ文明開化の(3)象徴といわれる時代が突然やって来たのである。

明治天皇が牛肉を試食する前年の明治四(一八七二)年一月四日、外務省が在日外国人高官を招いて催した「天長節(天皇誕生日)奉祝晩餐会」では、早くもフランス料理のフルコースが供されている。

現存するメニューによると、小海老のビスク(ポタージュの一種)にはじまり、ローストビーフ、鹿肉煮込み、家鴨蒸し焼き、ゼリーがけのガランティエヌ(パテの一種)、ジビエのパテ、羊もも肉ロースト、肥育鶏のローストと肉だけで七品、全一五品もの絢爛豪華な料理が並び、一九世紀当時のヨーロッパ貴族社会における食事様式が完璧に(4)踏襲された内容だ。材料を揃えるだけで莫大な(5)費用がかかったろう。

肉を食べる。それは富国強兵に邁進する明治の指導者たちが、西洋人に比べて小柄で見劣りのする日本人の体格を向上させるだけでなく、西洋料理を通じて欧米の「優れた」文明を吸収し、同化するために選んだ道だった。体力と知力の両方とも西洋人に遅れをとっていると感じた自分たちの劣等感を払拭するため、あらたに学んだ「栄養学的見地」から、(6)なにがなんでもやり遂げねばならなかったことである。

文明開化の食のキーワードは、美味より「滋養」だった。体を養うことが少ない日本料理の旧弊を正して西洋に追いつき、ひいては国力を増進することが最重要課題だった。明治初期に開業した西洋料理店は「精養軒」に代表されるように「養」がつく店名や、「自由亭」「開化亭」「開陽亭」「日新亭」「開成軒」といった開明的な店名が多く、(7)新時代の気分が伝わってくる。

日本特有の病気に、ビタミンB1の欠乏によって起こる脚気がある。「江戸患い」や「大阪腫れ」とも呼ばれ、白米を主食にする富裕層と都市住民だけが罹った(8)贅沢病だったが、軍隊が組織されてからは兵食の白米食べたさに入隊する者も多く、兵隊も脚気に悩まされるようになってしまった。

日露戦争の陸軍傷病者約三五万人のうち脚気患者が少なくとも二五万人、戦病死者三万七二〇〇余人中脚気によるもの約二万七八〇〇人というから、国家の存亡にかかわる深刻な疾病である。(9)原因をたんぱく質の不足と想定して洋食とパンを導入した海軍では、患者数が激減した。まさに栄養食の勝利である。

A

明治政府の高官や軍人、新知識人の多数派を占めたのは、江戸幕府では下級武士以下に属した者たちだった。(C) 伝統的な日本料理の美食には疎遠だったことが、食にナシヨナリズムを発動させず、やみくもな欧米食崇拜に向かわせる要因になったのかもしれない。西洋料理の導入と流行は(エ)ヒエラルキーの解体でもあり、西洋料理に親しむことは彼らのステイタス・シンボルになった。

(D)、すんなりと順応できたわけではなく、肉の味に慣れて西洋のマナーをマスターするには、スープをスプーンから吸おうとして胸から膝まで浴びるほどこぼしたり、肉をナイフで刺して食べようとして唇を切って流血したりと、滑稽なほどの努力がいったようだ。

このように明治の西洋料理志向は、「上」から押しつけられた国策ではあったのだが、これが庶民のあいだで(注)ファッションフード化するのに、それほど時間はかからなかった。

宮中の正餐にフランス料理を採用したり、鹿鳴館で晩餐会を開いたり、本格的な西洋料理の模倣に躍起になっていた上層の人々とは様子がだいぶ違う。庶民は最初こそさすがに牛肉の臭いになじめなかったが、やがて和風の調味料と鍋料理を結びつけた「牛鍋」が発案され、一気に浸透して早くも明治一〇(一八七七)年に東京府下の牛鍋屋は五五八軒に増えていた。

牛肉ブームに最初に乗ったのは、職人や車夫、芸人や書生、芸妓など「下層」と呼ばれる人々だった。明治の代表的な肉食論者である福沢諭吉の『福翁自伝』(明治三二)に「最下等の店だから、凡そ人間らしい人で出入する者は決してない。文身だらけの町の破落戸と(注)緒方の書生ばかりが得意の定客だ。何処から取寄せた肉だか、殺した牛やら病死した牛やら、そんな事には頓着なし、一人前百五十文ばかりで牛肉と酒と飯と十分の飲食であつたが、牛は随分硬くて臭かつた」とあるように、(オ)恐いもの知らずが手を出しはじめたのが安政期である。

幕末のこんな怪しげな雰囲気からときを経ずして、明治四年に出版された仮名垣魯文の戯作小説『牛店雑談安愚楽鍋』のなかの有名な一節「士農工商老若男女賢愚貧富おしなべて牛鍋食わねば開化不進奴」や、明治八年の『朝野新聞』の記事「近來は山間僻地の処女までが、牛を食はねば人間ではないやうに思ふ程になりました」から、すでに牛肉食が流行風俗として受けとめられていた世相がうかがわれる。

明治七年発行の『東京新繁昌記』(服部誠二)によると、牛肉を葱と煮る並鍋が三錢五厘、鍋に脂身を敷いてから煮る焼鍋が五錢。当時のざる蕎麦の値段が八厘だから、けっして高くない。牛鍋屋より質の落ちる露店もあり、屑肉を串に刺して大鍋で煮込んだ肉串を辻売りしたという。

牛丼の元祖である「牛飯」の屋台が出現したのは、明治二〇(一八八七)年頃の東京。こまぎれ肉、内臓、すじと葱を煮込んで飯にかけたファストフードで、上肉(ロース肉)の牛鍋が一人前で三、四錢するのに対し、牛飯は一錢と安いのが労働者層にうけた。明治三〇(一八九七)年頃には牛肉食はすっかり

定着し、牛鍋は引き続いて大流行中。馬肉や豚肉、犬肉を混入させたり、鮮度の落ちた肉を扱う悪徳業者も現れたりした。

江戸時代は流行が（ a ）から（ b ）へと広がっていったのに対し、明治前期の欧米化は（ c ）から（ d ）に、意図的に促進された。にもかかわらず、和洋折衷の牛鍋など洋風の流行食の発信は、やはり（ e ）からだった。

（畑中三応子『ファッションフード、あります。』による。一部改変。）

（注） 1 ファッションフード——ファッションとして消費されるようになった流行の、特に外来の食べもの。

2 緒方の書生——蘭学者・緒方洪庵が大阪に開いた私塾の書生。福澤諭吉も入門していた。

問1 空欄 A に入れる語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 1。

- ① モットー
- ② 御旗
- ③ ロゴマーク
- ④ スローガン
- ⑤ 座右の銘

問2 傍線部(1)～(5)の熟語の、次の二重傍線部と同じ意味を持つ漢字を、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は(1) 2、

(2) 3、
(3) 4、
(4) 5、
(5) 6。

(1) 発布

- ① 財布
- ② 配布
- ③ 布陣
- ④ 湿布
- ⑤ 散布

(2) 率先

- ① 軽率
- ② 率直
- ③ 引率
- ④ 率然
- ⑤ 率由

(3) 象徴

① 象形

② 巨象

③ 現象

④ 象牙

⑤ 対象

(4) 踏襲

① 襲撃

② 世襲

③ 襲衣

④ 奇襲

⑤ 逆襲

(5) 費用

① 効用

② 小用

③ 入用

④ 信用

⑤ 雑用

問3 傍線部(ア)「なにがなんでもやり遂げねばならなかったこと」とは何か。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

7

① 西洋人に対する劣等感を払拭すること。

② 欧米の「優れた」文明を吸収すること。

③ 欧米に同化すること。

④ 西洋を追い越すこと。

⑤ 肉を食べること。

問4 傍線部(イ)「新時代の気分」の説明として、最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 8。

- ① 天皇誕生日を祝して、フランス料理のフルコースを皆で食べよう。
- ② 日本の伝統文化を守りつつ、西洋文化も自由に取り込んでいこう。
- ③ 栄養価の低い日本料理ではなく、滋養のある西洋料理を食べよう。
- ④ 滋味あふれる西洋料理を食べて体格を向上させ、西洋人になろう。
- ⑤ 西洋料理を取り入れて進化した新しい日本料理を世界に広めよう。

問5 傍線部(ウ)「贅沢病」とあるが、どういう点が「贅沢」なのか。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 9。

- ① 白米が美味で滋養もあること。
- ② 都会で白米を食べられること
- ③ 白米が富裕層だけのものであること。
- ④ 主食として白米が食べられること。
- ⑤ 日本の伝統料理として白米を食べること。

問6 空欄(B)、(D)に入れる語として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つずつ選べ。解答番号は B 10、C 11、D 12。

- ① むしろ
- ② とはいえ
- ③ したがって
- ④ そのため
- ⑤ ところが
- ⑥ にもかかわらず

問7 傍線部(エ)「ヒエラルキーの解体」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

13。

- ① 西洋料理は元々、伝統的な日本料理の美食に疎遠だった明治政府の高官や軍人、新知識人が、庶民に工夫を促して流行させたものである、ということ。
- ② 西洋料理を導入せよ、という「上」からの指示により、上流階級は本格的西洋料理の模倣に躍起になり、庶民がそれを真似て流行させた、ということ。
- ③ 西洋料理の導入と流行を推進した明治政府の高官や軍人、新知識人は、江戸幕府では下級武士以下に属した者たちが多数派を占めていた、ということ。
- ④ 西洋料理の流行は、明治政府の高官や軍人、新知識人が食のナショナリズムを発動させて起こったもので、庶民はそれにうまく適応した、ということ。
- ⑤ 西洋料理の流行は国策だったが、明治政府の高官や軍人、新知識人のやみくもな欧米食崇拜が庶民に浸透し、爆発的な流行に結びついた、ということ。

問8 傍線部(オ)「恐いもの知らず」とあるが、それはどのような人々のことか。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

14。

- ① 安さだけを追求する人々。
- ② 硬くて臭い牛肉を好んで食べる人々。
- ③ ならず者や貧乏学生ばかりが通うような店に行く人々。
- ④ どの、どんな牛の肉であるかをまったく気にしないで食す人々。
- ⑤ 最下等の、凡そ人間らしい人が出入りしないような店に行く人々。

問9 空欄（ a ）（ ）（ e ）には「上」か「下」のいずれかの語が入る。「上」が入る場合は①、「下」が入る場合は②をマークせよ。

解答番号は a 15、 b 16、 c 17、 d 18、 e 19。

第2問 次の文章は、昭和十六（一九四一）年に書かれた大阪を舞台にした小説の全文である。これを読んで、後の問いに答えよ。

東より順に大江橋、渡辺橋、田簀橋^{みの}、そして船玉江橋まで来ると、橋の感じがにわかに見すばらしい。橋のたもとに、ずり落ちたような感じに薄汚い大衆喫茶店兼飯屋がある。その地下室はもとどこかの事務所らしかったが、久しく人の姿を見うけない。それが妙に陰気くさいのだ。また、大学病院の建物も橋のたもとの附属建築物だけは、^ア置き忘れられたようにうら淋しい^{さび}。薄汚れている。入口の階段に患者が灰色にうずくまったりしている。そんなことが一層この橋の感じをしょんぼりさせているのだろう。川口界隈^{わい}の煤煙^{ばい}にくすんだ空の色が、重くこの橋の上に垂れている。川の水も濁っている。

^A、陰気だ。ひとつには、この橋を年中日に何度となく渡らねばならぬことが、さように感じさせるのだろう。橋の近くにある倉庫会社に勤めていて、朝夕の出退時間はむろん、仕事が外交ゆえ、何度も会社と訪問先の間を往復する。その都度せかせかとこの橋を渡らねばならなかった。近頃は、弓形になった橋の傾斜が苦痛でならない。疲れているのだ。一つ会社に十何年間かこつこつと勤め、^B地位があがらず、依然として平社員のままにいる人^にあり勝ちな疲労がしばしばだった。橋の上を通る男女や荷馬車を、浮かぬ顔して見ているのだ。

近くに倉庫の多いせい^にか、実によく荷馬車^にが通る。たいていは馬の肢が折れるかと思うくらい、重い荷を積んでいるのだが、傾斜があるゆえ、馬にはこの橋が^イ鬼門^{きもん}なのだ。鞭^{むち}でたたかれながら弾みをつけて渡り切ろうとしても、中程^{ちゅう}に来ると、轍^{わだち}が空まわりする。馬はずるずる後退しそうになる。石畳の上に爪立てた蹄^{ひづめ}のうらがきらりと光って、口の泡が白い。痩せた肩に湯気が立つ。ピシ、ピシと敲^{たた}かれ、悲鳴をあげ、空を噛^かみながら、やっと渡ることが出来る。それまでの苦労は実に変だ。彼は見ていて胸が痛む。轍^{わだち}の音がしばらく耳を離れないのだ。

雨降りや雨上りの時は、蹄^{ひづめ}がすべる。^C、四つ肢をばたばたさせる。おむつをきらう赤ん坊^にのようだ。仲仕が鞭^{むち}でしばく。起きあがろうとする馬の毛^もがきはいたましい。毛並に疲労の色が濃い。そんな光景を立ち去らずにあくまで見て胸を痛めているのは、彼には近頃自虐^{じぎやく}めいた習慣^{しゅうへん}になっていた。

^ウ側隠^{そくいん}の情もじかに胸に落ちこむのだ。以前はちらと見て、通り過ぎていた。

ある日、そんな風にやっとの努力で渡って行った轍^{わだち}の音をききながら、ほっとして欄干^{らんかん}をはなれようとする、一人の男が寄ってきた。貧乏たらしく薄汚い。哀れな声で、針中野まで行くにはどう行けばよいのかと、紀州訛^{なまり}できいた。渡辺橋から市電で阿倍野まで行き、そこから大鉄電車——と説明しかけると、いや、歩いて行くつもりだと言う。そら、君、無茶だよ。だって、ここから針中野まで何里……あるかもわからぬ遠さにあきれていると、^D、私は和歌山の者ですが、知人を頼って西宮まで訪ねて行きましたところ、針中野というところへ移転したとかで、西宮までの電車賃はありましたが、あと

一文もなく、朝から何も食わず、空腹をかかえて西宮からやっとここまで歩いてやって来ました、あと何里ぐらいありますか。半分泣き声だった。

E、君、失礼だけれどこれを電車賃にしたまえと、よれよれの五十銭ぜにを男の手に握らせた。けっしてそれはあり余る金ではなかったが、(エ) 惻隱の情はまだ温く尾をひいていたのだ。男はぺこぺこ頭を下げ、立ち去った。すりきれた草履の足音もない哀れな後姿だった。

それから三日経った夕方、れいのように欄干に凭もたれて、汚い川水をながめていると、うしろから声をかけられた。もし、もし、ちょっとお伺いしますがのし、針中野ちうたらここから……振り向いて、あつ、君はこの間の——男は足音高く逃げて行つた。その方向から荷馬車が来た。馬がいなないた。彼はもうその男のことを忘れ、(オ) びつくりしたような苦痛の表情を馬の顔に見ていた。

(織田作之助「馬地獄」による。一部改変。)

問1 傍線部(ア)「置き忘れられたように」、(イ)「鬼門」の本文中の意味について、次の各群の①～⑤のうちから最も適当なものを一つずつ選べ。

解答番号はアⅡ 20、イⅡ 21。

(ア) 置き忘れられたように

- | | |
|-------------------|-------------------|
| ① 目立たず周囲に溶け込んだ感じで | ② 特徴がなく記憶に残らない感じで |
| ③ 孤立してさびれている感じで | ④ 周囲から浮いた場違いな感じで |
| ⑤ 時間がそだけ止まっている感じで | |

(イ) 鬼門

- | | | | | |
|------|-------|-------|------|------|
| ① 難所 | ② 禁足地 | ③ 修羅場 | ④ 魔所 | ⑤ 窮地 |
|------|-------|-------|------|------|

問2 空欄 A E に当てはまる語を、次の①～⑤のうちから一つずつ選べ。解答番号は A 22、B 23、C 24、D 25、

E 26。

- ① しかも ② 思わず ③ ともかく ④ 実は ⑤ いきなり

問3 傍線部(ウ)「惻隠の情もじかに胸に落ちこむのだ」とあるが、この意味の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は 27。

- ① 黙々と働く馬を応援することによって、自分自身をも励ましている。
② 仲仕に虐待される馬を見ているだけの自分の不甲斐なさに、自ら腹を立てている。
③ 苦しんでいる馬と自分の現状を比較して、まだ自分の方がましだとほっとしている。
④ 橋を上るのに苦勞している馬を見て、人生も同じだと達観している。
⑤ 苦しむ馬をあわれむことは、同時に自分自身をあわれむことになっている。

問4 傍線部(エ)「惻隠の情はまだ温く尾をひいていたのだ」とあるが、この意味の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は 28。

- ① あえいでいる馬を見たときの苦しんでいる弱い存在への同情心が、まだ胸の中に残っていた、ということ。
- ② 苦しむ馬に共感したときの世の中の不条理に対する怒りが、まだ胸の中に残っていた、ということ。
- ③ 人間の欲望のためにこき使われる馬を見たときの罪の意識が、まだ胸の中に残っていた、ということ。
- ④ 何かを必死に訴えかけるような馬の表情を見たときのやるせなさが、まだ胸の中に残っていた、ということ。
- ⑤ 苦難に立ち向かい一步一步橋を上っていく馬を見たときの感動が、まだ胸の中に残っていた、ということ。

問5 傍線部(オ)「びっくりしたような苦痛の表情を馬の顔に見ていた」とあるが、これについて次のⅠ、Ⅱの問いに答えよ。

Ⅰ ここでの馬は、小説の中でどのような役割を担っていると考えられるか。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 29。

- ① 暗い物語に、癒しをもたらす役割。
- ② 「彼」の心情を客観的に評価する役割。
- ③ 人知を超えた存在を暗示する役割。
- ④ 「彼」の心を映す鏡のような役割。
- ⑤ 愚かな人間たちを嘲笑う役割。

Ⅱ 「びっくりしたような苦痛」と書かれている理由について、最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 30。

- ① 偶然同じ人にめぐりあった縁とともに、それによって悪事がばれることとなった世の中の巡り合わせの皮肉さを表したいから。
- ② 無垢だと思っていた人が詐欺を働いていた意外性とともに、温かい心の交流も幻に過ぎない世の中の生き辛さを表したいから。
- ③ 同じ場所と同じ手口で悪事を働こうとしていた愚かさにあきれるとともに、教育のない人々が増えている世相を表したいから。
- ④ 馬も人間と同じような反応をするという発見とともに、馬の目から見ても救いようなない世の中の悲劇を表したいから。
- ⑤ ひとを騙すそのテクニクの想像以上の洗練度とともに、その才能が悪事にのみ活かされるという残念な現実を表したいから。

問 6 この文章の構成や表現の特徴を説明したものとして、適当でないものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 31。

- ① 主人公の鬱屈した状況を、くすんだトーンで風景を描くことで読者に印象付けている。
- ② 起承転結の転に当たる話が、結でもう一度覆される構成になっている。
- ③ 馬の様子を詳細に観察し、馬に乗り移ったようにその内面を生々しく描いている。
- ④ 詐欺をはたっていたことがばれて豹変する男の様子が、足音の対比で効果的に描かれている。
- ⑤ 主人公は三人称の「彼」となっているが、一人称に替えても文章はそのまま問題なく成り立つ。

第3問、第4問は受験する学科・専攻によって解答する設問が異なりますので、注意してください。

【大学】 情報工学科

経済学科

経営学科

文学科（英米文学専攻、心理学専攻）

教育学科

芸術学科

栄養学科

スポーツ科学科

【短大】 現代教養学科

食物栄養学科

幼児教育学科

上記学科・専攻の受験者は、第3問を解答しなさい。

（14ページ～17ページ）

【大学】 文学科（日本文学専攻、歴史学・考古学専攻）の受験者は、第4問【古文】を解答しなさい。

（18ページ～21ページ）

第3問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

利己的な遺伝子という理論は、ドーキンスの1976年に出版された『利己的な遺伝子 (The Selfish Gene)』という本で一般的に広く浸透しました。この利己的な遺伝子というのは、私たち個体は自分を構成する遺伝子に操られているのではないかという考え方です。この考え方は進化論を唱えた、かの有名なチャールズ・R・ダーウインの考えとは真逆です。

ダーウインは、

「個体が遺伝子よりも優先する。個体は、自己に似た個体を子として産むことを目的とし、そのために遺伝子を利用する」

としています。利己的遺伝子説では、

「遺伝子が個体よりも優先する。遺伝子は、自己に似た遺伝子を増やすことを目的とし、そのために個体を利用する」

としています。つまり人間にたとえると、自己を伝える「遺伝子」が、広まりたい複製したいという意思を持っているかのような存在であり、(ア) 私たち自体はその遺伝子を運ぶための「乗り物」であると考えます。遺伝子は自分のコピーをより多く残すために乗り物(私たちの体)を作り、その乗り物が他の乗り物や環境の中でうまく生き延びられるように操作するのです。この考え方によって、さまざまな共生関係や進化をうまく説明することができるのです。

ドーキンスによれば、私たちを構成する遺伝子は総称して「遺伝子型」と呼ばれます。さらに、その目標を達成するために作られる体の部位や機能は「表現型」と呼ばれます。そして、すべての遺伝子はそれぞれ寄生者的な側面を持っており、その表現型は私たちの体だけでなく、遺伝子が引き起こす私たちの行動をもつかさどっているとドーキンスは考えました。

ドーキンスはビーバーの作るダムを例にして(イ) 「延長された表現型」という概念を本の中で説明しています。ビーバーの遺伝子はビーバーの骨や肉、目の色などの体を作る以外にも、水をせき止めてダムを作るという行動や、ダムを作るという行動によって新たに生まれた池も作り出します。これが、ビーバーの遺伝子によって生み出された「延長された表現型」というわけです。

ビーバーがダムを作り池ができると、周囲の水位が上がって、敵に襲われにくくなります。そして、より強いダムを作るような遺伝子に変異によって生まれた場合、その変異遺伝子を持った表現型のビーバーは、さらに生き残る確率が高まり、よりたくさんの子どもを残す可能性があります。そして、何世代か経過すると、そのような変異遺伝子を持ったビーバーは集団の中でどんどん勢力を拡大していきます。

ちょっとした遺伝子の変異が、その生物の周囲の環境を変える力があると主張したドーキンスは、その典型的な例として他の生物の行動を操作する寄生者の存在を挙げています。

カタツムリとそのカタツムリに寄生するロイコクロリディウムを例に取って考えてみましょう。カタツムリの体を作り木の先端まで登る筋肉を作っているのは、カタツムリの遺伝子です。しかし、普段は隠れているカタツムリを日の光にさらし、鳥に見つかりやすいようカタツムリの行動を支配するのは寄生するロイコクロリディウムの遺伝子であり、これがロイコクロリディウムの「延長された表現型」なのです。宿主の行動を操る力は、寄生者の遺伝子の中に組み込まれています。寄生者の遺伝子の一つが変異すれば、その変化は、宿主の行動にまで影響します。そして、その変異が寄生者にとって有意に働く場合は、その寄生者は繁栄し、その変異を持った個体が広く継がれていくのです。

この「延長された表現型」という考え方は1982年にドーキンスが発表した同題名の本の中で説明され、現在でも広く受け入れられている学説です。「共生」という言葉を聞くと、「共生社会」などのような、お互いに助け合う関係という印象を持たれる方も多いと思いますが、生物学における共生(symbiosis)とは、複数種の生物が相互に関係を持ちながら同じ場所に生活する現象全般を指します。つまり、寄生(parasitism)も、共生の一種です。

(成田聡子『したたかな寄生』による。一部改変。)

問1 ドーキンスの考えとダーウィンの考えはどれか。最も適当なものを次の①～⑥のうちから一つずつ選べ。解答番号は、「ドーキンスの考え」＝

「ダーウィンの考え」＝

33。

32、

- ① 環境がすべてを決定し、個体も遺伝子も環境に従って変化するという考え。
- ② 個体が遺伝子よりも優先し、遺伝子を利用して自己に似た個体を産むという考え。
- ③ 個体の意志が進化を導き、環境に合わせて自己を変えろという考え。
- ④ 遺伝子の意志が進化を導き、環境に合わせて自己を増やすという考え。
- ⑤ 個体と遺伝子は同等であり、協力して自己に似た個体を産むという考え。
- ⑥ 遺伝子が個体よりも優先し、個体を利用して自己に似た遺伝子を増やすという考え。

問2 傍線部(ア)「私たち自体はその遺伝子を運ぶための「乗り物」である」と書かれているが、この比喩表現はどのような意味で使われているか。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 34。

- ① 遺伝子は人間に完全に支配されており、人間が主として進化を導く。
- ② 遺伝子と人間は互いに依存し合う関係であり、どちらも主ではない。
- ③ 人間は遺伝子の存続を助けるための手段にすぎず、遺伝子に利用される。
- ④ 遺伝子は人間の体の一部を作るだけで、行動には関与しない。
- ⑤ 遺伝子は自然環境の変化のみによって進化し、人間は関係しない。

問3 傍線部(イ)「延長された表現型」と、ビーバーのダム作りが呼ばれる理由は何か。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は 35。

- ① ビーバーの遺伝子は体の特徴だけでなく、ダム作りや池の形成にも影響するから。
- ② ビーバーの遺伝子は体の特徴を決めるだけで、行動や環境の変化には影響しないから。
- ③ ビーバーのダム作りは個体の意志による行動であり、遺伝子の表現型とは無関係だから。
- ④ ビーバーの作るダムは環境に影響を与えるが、それは遺伝子の表現型とは言えないから。
- ⑤ ビーバーの作るダムや池は体の外にできるものであり、遺伝子の表現型としては考えられないから。

問4 この文章の後半の構成や展開に関する説明として、最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 36。

① ビーバーのダム作りやカタツムリに寄生するロイコクロリディウムの行動を通して、具体例を踏まえながらも、全体はダーウィンの理論との比較に力点を置く構成である。

② ビーバーのダム作りやカタツムリの寄生の行動を通して、自然界の多様な生態を紹介することを中心に展開している構成である。

③ ビーバーのダム作りやカタツムリに寄生するロイコクロリディウムの行動を通して、生物が生き延びるための工夫を描写する点に重点が置かれた構成である。

④ ビーバーのダム作りやカタツムリに寄生するロイコクロリディウムの行動を通して、理論用語の説明をほとんど省き、具体例を並べて自然界の多様な生態の理解を促す構成である。

⑤ ビーバーのダム作りやカタツムリに寄生するロイコクロリディウムの行動を通して、遺伝子と個体の関係を具体的に理解させる構成である。

問5 次の文章は本文の内容をまとめたものである。文中の空欄 A A E E に入れるのに最も適当な語句を、次の①～⑩のうちから一つずつ選べ。

解答番号は、A 37、B 38、C 39、D 40、E 41。

リチャード・ドーキンスの『利己的な遺伝子』では、進化の主体は遺伝子であると考え。遺伝子は自分を A するために私たちの体を乗り物として利用し、その結果、体の形や B だけでなく行動や周囲の環境にも影響を与える。たとえば、ビーバーはダムを作ること生き残りやすくなり、その行動は遺伝子に導かれていると考えられる。また、寄生者 C はカタツムリを操作して鳥に見つかりやすくする行動を引き起こす。これも遺伝子が行動に影響する例である。このような D という考え方は、寄生や E など生物同士の関係や進化を理解する助けとなる。

- | | | | | |
|-------|------------|------|--------|--------------|
| ① 複製 | ② 個体 | ③ 変異 | ④ 機能 | ⑤ ロイコクロリディウム |
| ⑥ 表現型 | ⑦ 延長された表現型 | ⑧ 共生 | ⑨ ウイルス | ⑩ 動物 |

第4問【古文】 次の文章は、平安時代中期に成立した歌物語『大和物語』の一節である。これを読んで、後の問いに答えよ。

(注1) 染殿の内侍ないしといふ、(ア) いますかりけり。それを(注2) 能有よしありの大臣おとどと①申すなむ、ときどきすみたまひける。ものをよくし②たまひければ、御衣ぞどもをなむあづけさせたまひけるに、(注3) 綾あやどもをおほく(イ) つかはしたりければ、「(注4) 雲鳥の紋の綾をや染む」Iと③聞こえたりしを、ともかくものたまはせ(ア) ねば、「えなむ仕うまつら(エ) ぬ。さだめ④うけたまはらむ」と申し⑤たてまつりければ、大臣の御返しに、

〔和歌1〕雲鳥のあやの色をおもほえず人をあひ見で年の経(エ) ぬれば
となむのたまへりける。

おなじ内侍に、(注5) 在中将すみける時、中将のもとによりてやりける。

〔和歌2〕秋萩はぎを色どる風の吹きぬれば人のころもうたがはれけり
とありければ、

〔和歌3〕秋の野を色どる風は吹き(イ) ぬともところはかれじ草葉ならねば
となむいへりける。かくてすまずなりてのち、中将のもとより、衣をなむ、(注6) しにおこせたりける。それに、「(注7) あらはひなどする人なくて、いと(ウ) わびしくなむある。なほかならずしてたまへ」となむありければ、内侍、「(注8) 御心もてあることにこそはあ(エ) なれ。」

〔和歌4〕(注9) 大幣おほぬさになりぬる人の悲しきはよるせともなくしかぞなくなる」
となむいひやりける。中将、

〔和歌5〕なかるともなにか見えむ手にとりてひきけむ人ぞ幣と知るらむ
となむいひける。

(注) 1 染殿の内侍——藤原良相(八二六—八六七)の娘など、諸説ある。

2 能有の大臣——源能有(八四五—八九七)。文徳天皇の皇子。

3 綾——いろいろの模様を織り出した絹。綾織物。

4 雲鳥の紋——雲と鶴の模様。

5 在中将——在原業平（八二五—八八〇）。

6 しにおこせたりける——仕立ててもらおうと送ってきた。

7 あらはひ——洗濯。

8 御心もてあること——お心がけによるもの。

9 大幣——祓^{はら}えの式に用いる櫛^{くし}や大串につけた幣帛^{へいはく}。式後、参列の人々がこれを引き寄せて身をなで、罪や穢^{けが}れをそれに移したことから、引く手あまたのたとえ。

問1 二重傍線部（ア）～（ウ）の解釈として最も適当なものを、それぞれ①～⑤のうちから一つずつ選べ。解答番号はアⅡ

ウⅡ 34。

（ア）「いますかりけり」

① 富み栄えていた

② 今風の人物であった

③ いた

④ 寵愛^{ちやうあい}を受けていた

⑤ いらっしやった

（イ）「つかはしたりければ」

① 持っていかせなされたので

② 持っていかせたなら

③ 使うことができたので

④ 使わなければならなかったのだ

⑤ 使うことがおできになったら

（ウ）「わびしく」

① 悲しく

② つらく

③ 趣深く

④ 申し訳なく

⑤ 寂しく

32、

イⅡ

33、

問2 空欄 I に入る語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 35。

- ① べし
- ② べかれ
- ③ べく
- ④ べき
- ⑤ べけれ

問3 傍線部 (A) ～ (E) に関する文法的説明の中で最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 36。

- ① (A) の「ね」は、打消の助動詞の未然形である。
- ② (B) の「ぬ」は、完了の助動詞の終止形である。
- ③ (C) の「ぬれ」は、動詞の活用語尾に、完了の助動詞の已然形がついたものである。
- ④ (D) の「ぬ」は、打消の助動詞の連体形である。
- ⑤ (E) の「なれ」は、推定の助動詞の已然形である。

問4 本文中の破線部 ①～⑤のうち、染殿の内侍に対する敬意を表しているのはどれか。適当なものを一つ選べ。解答番号は 37。

- ① 申す
- ② たまひ
- ③ 聞こえ
- ④ うけたまはら
- ⑤ たてまつり

問5 本文中にある五首の和歌について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

38。

- ① 《和歌1》は、女が恨み言を言ったのに対し、男が恋しさを述べることによって、うまくとりなした和歌である。
- ② 《和歌2》は、「秋萩」の「あき」が「秋」と「飽き」との掛詞になっていて、男の恋心を疑う内容の和歌である。
- ③ 《和歌3》は、「かれ」が「枯れ」と「離^かれ」との掛詞になっていて、自分の愛情はまだ失われていないと主張する和歌である。
- ④ 《和歌4》は、たくさんの女性から親しく交際を求められた男も結局は泣くしかない状況になったと気の毒がる和歌である。
- ⑤ 《和歌5》は、自分には愛情を注ぐ妻がいるので、あなたの情愛に頼って涙を流す必要はないと開き直り、強がる和歌である。

問6 本文中に登場した在原業平が主人公とされる歌物語はどれか。適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

39。

- ① 『落窪物語』
- ② 『伊勢物語』
- ③ 『源氏物語』
- ④ 『竹取物語』
- ⑤ 『平中物語』

問題は以上です。

2026(令和8)年度 金沢学院大学・金沢学院短期大学
総合型選抜学力選抜方式（2025年12月13日実施）
解答例【マーク式】

国語 【国語総合】				国語 【国語総合+古文】			
解答番号		正解	配点	解答番号		正解	配点
第1問	1	④	3	第1問	1	④	3
	2	②	2		2	②	2
	3	③	2		3	③	2
	4	①	2		4	①	2
	5	②	2		5	②	2
	6	③	2		6	③	2
	7	⑤	3		7	⑤	3
	8	③	4		8	③	4
	9	④	4		9	④	4
	10	⑤	3		10	⑤	3
	11	④	3		11	④	3
	12	②	3		12	②	3
	13	③	4		13	③	4
	14	④	3		14	④	3
	15	②	2		15	②	2
	16	①	2		16	①	2
	17	①	2		17	①	2
	18	②	2		18	②	2
	19	②	2		19	②	2
第2問	20	③	1	第2問	20	③	1
	21	①	1		21	①	1
	22	③	1		22	③	1
	23	①	1		23	①	1
	24	⑤	1		24	⑤	1
	25	④	1		25	④	1
	26	②	1		26	②	1
	27	⑤	5		27	⑤	5
	28	①	5		28	①	5
	29	④	5		29	④	5
	30	②	5		30	②	5
	31	③	3		31	③	3
第3問	32	⑥	2	第4問	32	⑤	2
	33	②	2		33	①	2
	34	③	2		34	②	2
	35	①	2		35	④	3
	36	⑤	2		36	⑤	3
	37	①	2		37	②	3
	38	④	2		38	⑤	3
	39	⑤	2		39	②	2
	40	⑦	2				
	41	⑧	2				

計	100
---	-----

計	100
---	-----